

写

「五條市学校適正化検討委員会 教育内容検討部会」の中間まとめ

教育内容検討部会では、五條に住み、これまでと、そしてこれからの五條の教育を考えていらっしやる委員の方々の声、想いを、単なる多数決だけではなく、一つの意見に込められている考え、想いにも光をあてることで、五條らしい、五條が求める教育について、深く、幅広い意見の収集を主眼に話し合いを行った。本部会は、次の三段階を通して話し合いを深めていった。まず、質問紙調査の作成および結果の分析を中心にした話し合い。次に、視点を次の4視点(①困ったこと(して欲しかったこと)、②よかったこと(助かったこと)、③知りたいこと、④こうすればよい(期待と希望))に絞り、ワークシートを活用した少人数のグループディスカッションを行った。同時に、振り返りの宿題も課した。最後に、20 答法をベースに、2 視点(①子どもが社会で生き抜くための教育、②(①を支えるための)保護者が子育てしやすい教育施設)から個々の意見を吸い上げ、さらに話し合いを行った。

これまでの経過を整理すると、教育内容検討部会での意見は以下のような流れを経てきた。

まず、第2回学校適正化検討委員会合同部会では、「これからの学校教育についてのアンケート」結果の考察を通して、1)「五條ならではの」教育のあり方を考える(質の高いもの、マイナス面をメリットに変換、郷土に対する誇り、幅広い参考例の検討)、2)アンケートの少数意見にも視点を向ける、3)最終的には「子どもにとって価値のある改革」を目指す、などについて考える意見が出された。

本部会に先立ち、先進的な取り組みをしている自治体への視察を行った直後の部会であったことから、規模の異なる取り組みをそのまま移行することの難しさに対する考えが反映されているようにみえた。同時に、教育を、子どもの現在から将来まで幅広く捉えて考えていく方向性が見出された。

次に、第2回学校適正化検討委員会では、質問紙調査の結果の分析を特に設問 11「これからの五條市の学校を、どのようにすることがよいと思いますか」、設問 13「五條市の学校や教育委員会に、もっと力を入れてほしいもの」、設問 18「五條の子どもたちに、どんな人になってもらいたいですか」に焦点化しながらさらに深めた。その結果、1)共通して「社会性・道徳性・健康・体力・コミュニケーション」の項目の数値が高い、2)調査結果では理数系の数値が低い、世界的な傾向を視野にいれ検討してはどうか(ICT 機器の利用に対する保護者の抵抗も低いように思われる)、3)学校に対し、地域の子育て相談や教育センター機能を期待している。そのための手段として、幼保小中の連携や、小中一貫教育

が可能性として挙げられる、などについて意見が出された。

続いて、第3回教育内容検討部会では、これまでの会議や質問紙調査結果等の資料を踏まえて委員の方々が考える「これからの五條市の教育内容について」前述の4つの視点(①困ったこと(して欲しかったこと)、②よかったこと(助かったこと)、③知りたいこと、④こうすればよい(期待と希望))に対して、2つのグループに分かれグループディスカッションを行った結果、3つの方向性が見出された。1)子どもに対する環境整備(一人ひとりに丁寧な保育・教育の提供、やりたい事をやらせてあげられる制限のない環境、互いに競い合える環境、多くの人と接することや、たくさんの経験を通して人間性を高めていける環境、中1ギャップ、小1プロブレムの対応)、2)保護者に対する環境整備(子育てしやすい、安心して働き、子どもを育てることができる)、これらの実現手段として、3)教育・保育の一本化、小中一貫、またそれに伴う現状分析の必要性などである。

最後に、第4回教育内容検討部会では、第3回で見出された方向性の意見をさらに深く引き出すために、子ども、保護者双方にとって必要な教育および教育施設について考えを出す20答法を用い、さらにその結果を踏まえた意見交換を2つのグループに分かれ行った。

各グループがまとめた意見は、①子どもが社会で生き抜くための教育に対しそれぞれのグループの意見として、1)挨拶・感謝・素直に聞き行動する、2)広い世界を知る、3)地域一体、市全体でも守っていく、4)しっかり会話をする、5)自分を守る力をつける、6)勤労意欲の育成など。②保護者が子育てしやすい教育施設に対するそれぞれのグループの意見では、1)安心・安全な学校(通学も含める)、安心して預けられる保育所や学童保育所、2)子育て相談・サポート、3)地域活動ができる場所、4)積み残しのない教育、5)あたたかい学級づくり、6)教師の質、7)選択できるなどであった。

本部会の意見交換の結果を、教育施設という視点から見ると、双方のグループから、「安心・安全」という言葉が幾度も出てきた。保育所・学童保育といった「学校以外の行政施設との関わり」、個別意見として挙げられていた図書館などから「学校以外の行政と連携した場所や施設の必要性」も求められている。

また、地域や保護者の方を含めた、「子育て相談」も求められている。この中には、地域と共に作っていく(地域との相互乗り入れ。地域一体。市全体で守っていく。関わることで広がる等)、学校だけではなく、保護者も地域も巻き込んだ、地域全体で守っていく展開まで含まれている。

もう一方の、「子どもが社会で生き抜くための教育」では、それぞれの考えの説明を行う中で、「小さいうちから」、「大人になったら」等のキーワードがいくつも出ていた。これは、子どもに対する教育をぶつ切りにして考えていくのではなく、「小さいときから、大人を見据えて」であったり、途中の段階であれば、後ろを振り返ってであったり、小学校だけ、

中学校だけではなく、相互の連携を見据えた上で教育を捉えたらよい、と考えられている意見であったと感じた。

以上のような意見から、本教育内容検討部会が出された意見として中間報告をまとめると、次の2つの立場から、4つを展開および充実させていく方向が望ましいのではないかと考える。

1. 子どもの現在から将来まで幅広く捉えて考えていく立場
 - 1) 幼保小中がより一層連携を密にした取り組みの展開
(幼い頃から、先を見据え、継続できる)
 - 2) 地域活動との関わり (地域の行事等の相互乗り入れ) の展開
2. 保護者が子育てしやすい、安心して働き、子どもを育てることができる立場
 - 1) 相談・サポートの充実
 - ① 学童保育や学校以外の行政施設等との関わりの充実
 - ② 地域の子育て相談の充実
 - 2) 学校 (幼保小中)・保護者・地域・行政 (四位一体) の展開

平成 27 年 2 月 19 日

「五條市学校適正化検討委員会 教育内容検討部会」

元根 朋美 (元根)